

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

JP979 U.S. PRO
09/17/0082
02/08/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application:

2000年 2月10日

出願番号
Application Number:

特願2000-038255

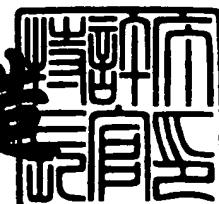
出願人
Applicant(s):

ソニー株式会社

2000年12月22日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3107367

【書類名】 特許願
【整理番号】 0000065606
【提出日】 平成12年 2月10日
【あて先】 特許庁長官 近藤 隆彦 殿
【国際特許分類】 G11B 20/10
【発明者】
【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号ソニー株式会社内
【氏名】 森永 剛男
【特許出願人】
【識別番号】 000002185
【氏名又は名称】 ソニー株式会社
【代表者】 出井 伸之
【代理人】
【識別番号】 100082740
【弁理士】
【氏名又は名称】 田辺 恵基
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 048253
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9709125
【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報記録装置、情報再生装置、情報記録再生装置及び方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】

所定のフォーマットで符号化画像データを記述したパケットで構成されるストリームを所定の蓄積デバイスに記録する情報記録装置において、

入力される上記ストリームの上記パケットから、フレーム内符号化された上記符号化画像データの開始部分が含まれる上記パケットを識別する識別手段と、

上記識別結果に基づいて、上記フレーム内符号化された符号化画像データの開始部分の有無情報を上記パケットに付加する付加手段と、

上記付加された上記開始部分の有無情報を上記蓄積デバイスへの記録単位ごとにカウントするカウント手段と、

上記カウント結果を上記蓄積デバイスへの記録単位ごとに付加するカウント結果付加手段と

を具えることを特徴とする情報記録装置。

【請求項2】

上記付加手段は、上記符号化画像データのチャンネルごとに分けて上記開始部分の有無情報を上記パケットに付加し、

上記カウント手段は、上記開始部分の有無情報を上記チャンネルごとにカウントし、

上記カウント結果付加手段は、上記チャンネルごとのカウント結果を上記チャンネルごとに分けて上記記録単位ごとに付加する

ことを特徴とする請求項1に記載の情報記録装置。

【請求項3】

所定のフォーマットで符号化画像データを記述したパケットで構成されるストリームを所定の記録単位で記録した蓄積デバイスから上記ストリームを再生する情報再生装置において、

フレーム内符号化された上記符号化画像データの開始部分を含む上記記録単位を当該記録単位ごとに付加された上記開始部分の情報に基づいて再生する再生手

段と、

上記開始部分を含む上記記録単位が再生された後、所定数の上記記録単位を飛び越して上記付加された上記開始部分の情報を検出する飛び越し再生手段とを具えることを特徴とする情報再生装置。

【請求項4】

上記開始部分の情報は上記符号化画像データのチャンネルごとに分けて上記記録単位に付加されており、

上記再生手段は再生するチャンネルの上記開始部分の情報を検出することを特徴とする請求項3に記載の情報再生装置。

【請求項5】

所定のフォーマットで符号化画像データを記述したパケットで構成されるストリームを所定の蓄積デバイスに対して記録及び再生する情報記録再生装置において、

入力される上記ストリームの上記パケットから、フレーム内符号化された上記符号化画像データの開始部分が含まれる上記パケットを識別する識別手段と、

上記識別結果に基づいて、上記フレーム内符号化された符号化画像データの開始部分の有無情報を上記パケットに付加する付加手段と、

上記付加された上記開始部分の有無情報を上記蓄積デバイスへの記録単位ごとにカウントするカウント手段と、

上記カウント結果を上記蓄積デバイスへの記録単位ごとに付加して上記蓄積デバイスに記録するカウント結果付加手段と、

上記記録単位ごとに付加して上記蓄積デバイスに記録された上記カウント結果に基づいて上記蓄積デバイスに記録された上記記録単位を再生する再生手段と、

上記開始部分を含む上記記録単位が再生された後、所定数の上記記録単位を飛び越して上記付加された上記開始部分の情報を検出する飛び越し再生手段とを具えることを特徴とする情報記録再生装置。

【請求項6】

上記付加手段は、上記符号化画像データのチャンネルごとに分けて上記開始部分の有無情報を上記パケットに付加し、

上記カウント手段は、上記開始部分の有無情報を上記チャンネルごとにカウントし、

上記カウント結果付加手段は、上記チャンネルごとのカウント結果を上記チャンネルごとに分けて上記記録単位ごとに付加し、

上記再生手段は再生するチャンネルの上記開始部分の情報を検出し当該検出結果に基づいて上記チャンネルの上記記録単位を再生する

ことを特徴とする請求項5に記載の情報記録再生装置。

【請求項7】

所定のフォーマットで符号化画像データを記述したパケットで構成されるストリームを所定の蓄積デバイスに記録する情報記録方法において、

入力される上記ストリームの上記パケットから、フレーム内符号化された上記符号化画像データの開始部分が含まれる上記パケットを識別するステップと、

上記識別結果に基づいて、上記フレーム内符号化された符号化画像データの開始部分の有無情報を上記パケットに付加するステップと、

上記付加された上記開始部分の有無情報を上記蓄積デバイスへの記録単位ごとにカウントするステップと、

上記カウント結果を上記蓄積デバイスへの記録単位ごとに付加するステップと

を具えることを特徴とする情報記録方法。

【請求項8】

上記フレーム内符号化された符号化画像データの開始部分の有無情報を上記パケットに付加するステップでは、上記符号化画像データのチャンネルごとに分けて上記開始部分の有無情報が上記パケットに付加され、

上記付加された上記開始部分の有無情報を上記蓄積デバイスへの記録単位ごとにカウントするステップでは、上記開始部分の有無情報が上記チャンネルごとにカウントされ、

上記カウント結果を上記記録単位ごとに付加するステップでは、上記チャンネルごとのカウント結果が上記チャンネルごとに分けて上記記録単位ごとに付加される

ことを特徴とする請求項7に記載の情報記録方法。

【請求項9】

所定のフォーマットで符号化画像データを記述したパケットで構成されるストリームを所定の記録単位で記録した蓄積デバイスから上記ストリームを再生する情報再生方法において、

フレーム内符号化された上記符号化画像データの開始部分を含む上記記録単位を当該記録単位ごとに付加された上記開始部分の情報に基づいて再生するステップと、

上記開始部分を含む上記記録単位が再生された後、所定数の上記記録単位を飛び越して上記付加された上記開始部分の情報を検出するステップと、

を具えることを特徴とする情報再生方法。

【請求項10】

上記開始部分の情報は上記符号化画像データのチャンネルごとに分けて上記記録単位に付加されており、

フレーム内符号化された上記符号化画像データの開始部分を含む上記記録単位を当該記録単位ごとに付加された上記開始部分の情報に基づいて再生するステップでは、再生するチャンネルの上記開始部分の情報が検出される
ことを特徴とする請求項9に記載の情報再生方法。

【請求項11】

所定のフォーマットで符号化画像データを記述したパケットで構成されるストリームを所定の蓄積デバイスに対して記録及び再生する情報記録再生方法において、

入力される上記ストリームの上記パケットから、フレーム内符号化された上記符号化画像データの開始部分が含まれる上記パケットを識別するステップと、

上記識別結果に基づいて、上記フレーム内符号化された符号化画像データの開始部分の有無情報を上記パケットに付加するステップと、

上記付加された上記開始部分の有無情報を上記蓄積デバイスへの記録単位ごとにカウントするステップと、

上記カウント結果を上記蓄積デバイスへの記録単位ごとに付加して上記蓄積デ

バイスに記録するステップと、

上記記録単位ごとに付加して上記蓄積デバイスに記録された上記カウント結果に基づいて上記蓄積デバイスに記録された上記記録単位を再生するステップと、

上記開始部分を含む上記記録単位が再生された後、所定数の上記記録単位を飛び越して上記付加された上記開始部分の情報を検出するステップと

を具えることを特徴とする情報記録再生方法。

【請求項1 2】

上記フレーム内符号化された符号化画像データの開始部分の有無情報を上記パケットに付加するステップでは、上記符号化画像データのチャンネルごとに分けて上記開始部分の有無情報が上記パケットに付加され、

上記付加された上記開始部分の有無情報を上記蓄積デバイスへの記録単位ごとにカウントするステップでは、上記開始部分の有無情報が上記チャンネルごとにカウントされ、

上記カウント結果を上記蓄積デバイスへの記録単位ごとに付加して上記蓄積デバイスに記録するステップでは、上記チャンネルごとのカウント結果が上記チャンネルごとに分けて上記記録単位ごとに付加され、

上記記録単位ごとに付加して上記蓄積デバイスに記録された上記カウント結果に基づいて上記蓄積デバイスに記録された上記記録単位を再生するステップでは、再生するチャンネルの上記開始部分の情報を検出され当該検出結果に基づいて上記チャンネルの上記記録単位が再生される

ことを特徴とする請求項1 1に記載の情報記録再生方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は情報記録装置、情報再生装置、情報記録再生装置及びそれらの方法に関し、特に、ハードディスクなどの蓄積デバイスにトランスポートストリームを記録する際、所定のブロック単位で、ブロックの前後関係などを示すインデックスを付加して記録する情報記録装置、情報再生装置、情報記録再生装置及びそれらの方法に適用して好適なものである。

【0002】

【従来の技術】

近年、デジタル衛星放送が本格的に開始され、各種のデジタル衛星放送受信装置が商品化されている。それらの装置の中には、受信したデジタル衛星放送番組を記録するためのハードディスクなどの蓄積デバイスを内蔵したものがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

上述したようなデジタル衛星放送受信装置で、トランSPORTストリームのようなA V(Audio Visual)ストリームを記録する場合、所定のブロック単位で連続したA Vストリームを、そのまま記録するようになされている。このようなストリームが記録された蓄積デバイスからストリームを再生する場合、例えば画像の構成を保証するための単位であるG O P(Group Of Pictures)の切れ目を判別することが困難となり、早送り再生(飛び越し再生)などのトリックプレーのように、ブロックを飛ばして再生する際に、G O P単位での飛び越し再生を行うことが困難であった。

【0004】

本発明は以上の点を考慮してなされたもので、蓄積デバイスからストリームを読み出す際に、その再生単位の先頭位置情報を一段と簡易な構成及び方法によつて識別し得る情報記録装置、情報再生装置、情報記録再生装置及びそれらの方法を提案しようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】

かかる課題を解決するため本発明においては、ストリームを蓄積デバイスに記録する際に、入力されるストリームのパケットから、フレーム内符号化された符号化画像データの開始部分が含まれるパケットを識別し、識別結果に基づいて、フレーム内符号化された符号化画像データの開始部分の有無情報をパケットに付加し、付加された開始部分の有無情報を蓄積デバイスへの記録単位ごとにカウントし、カウント結果を蓄積デバイスへの記録単位ごとに付加することにより、記録単位ごとにフレーム内符号化された符号化画像データの開始部分の数を記録單

位と共に蓄積デバイスに記録することができる。

【0006】

また、再生時において、蓄積デバイスに記録単位ごとに記録された開始部分の数を検出することにより、再生すべき記録単位を識別することができる。

【0007】

かくするにつき、所定数の記録単位を飛び越して再生する際に、再生すべき記録単位を容易に識別することができる。

【0008】

【発明の実施の形態】

以下図面について、本発明の一実施の形態を詳述する。

【0009】

図1は、デジタル衛星放送を受信するデジタル衛星放送受信装置に、蓄積デバイスとしてのハードディスクドライブ15を内蔵させた構成を示している。

【0010】

このデジタル衛星放送受信装置は、図示せぬ放送局からのデジタル衛星放送番組を構成するトランSPORTストリームを受信し、そのトランSPORTストリームとしての画像や音声を表示することができ、また、当該トランSPORTストリームをハードディスクドライブ15のハードディスク42に記録しておき、後に、その記録したトランSPORTストリームを再生し得るようになされている。

【0011】

すなわち、アンテナ11では、デジタル衛星放送波が受信され、その受信信号は、チューナ12に出力される。チューナ12は、アンテナ11からの受信信号の復調等を行い、トランSPORTストリームを得て、デスクランプ13に供給する。デスクランプ13は、CPU1の制御の下、チューナ12からのトランSPORTストリームにかけられているスクランブルを、CPU1から供給される復号キーを用いて解き、ハードディスク制御部50に出力する。

【0012】

デスクランプ13が出力するトランSPORTストリーム（以下、これを受信トランSPORTストリームと呼ぶ）は、ハードディスク制御部50に供給される

【0013】

また、ハードディスク制御部50には、受信トランSPORTストリームの他に、ハードディスクドライブ15においてハードディスク42から再生されたトランSPORTストリーム（以下、これを再生トランSPORTストリームと呼ぶ）が供給される。

【0014】

受信トランSPORTストリームを再生する場合には、ハードディスク制御部50は、入力される2つのトランSPORTストリーム（受信トランSPORTストリーム及び再生トランSPORTストリーム）のうちの、受信トランSPORTストリームを選択し、これを出力トランSPORTストリームとして、リンクレイヤIC16に出力する。

【0015】

リンクレイヤIC16は、出力トランSPORTストリームに対して、IEEE(Institute of Electrical and Electronics Engineers)1394シリアルバスのレイヤ構造におけるリンク層の処理等を施し、また、リンクレイヤIC16は、出力トランSPORTストリームを、DEMUX（デマルチプレクサ）18に出力する。

【0016】

ここで、物理レイヤIC17は、IEEE1394シリアルバスのレイヤ構造におけるリンク層の処理を行うようになされており、リンクレイヤIC16から、出力トランSPORTストリームを受信した場合には、その出力トランSPORTストリームを、IEEE1394シリアルバスを介して、図示せぬIEEE1394機器に、アイソクロナス(Isochronous)転送する。

【0017】

DEMUX18は、図示せぬマイクロコンピュータやメモリ等を有し、リンクレイヤIC16からの出力トランSPORTストリームを構成するトランSPORTストリームパケット（以下、これをTSパケットと呼ぶ）から、セクションのデータ(PAT(Program Association Table)や、PMT(Program Map Table)、トランSPORTストリームのスクランブルをデスクランブルするための復号キー、そ

の他の制御のために用いられる制御データ)が配置されたTSパケットを分離し、さらに、その内容を解析して、必要な制御データを、CPU1に出力する。

【0018】

ここで、CPU1は、以上のようにして、DEMUX 18から供給されるセクションのデータのうちの復号キーを、デスクランプ13に出力し、同じくDEMUX 18から供給されるその他のセクションのデータに基づいて、デスクランプ13を制御する。

【0019】

DEMUX 18は、出力トランSPORTストリームから、制御データ(セクションのデータ)が配置されたTSパケットを分離する他、ユーザが図示せぬリモートコマンダ等を操作することによって選択した番組のビデオデータ及びオーディオデータ(以下、これらをAVデータと呼ぶ)が配置されたパケットも分離して、AVデコーダ19に出力する。

【0020】

AVデコーダ19は、DEMUX 18からのTSパケットを、MPEG(Moving Picture Experts Group)2デコードし、その結果得られるAVデータを、図示せぬモニタに出力する。これにより、モニタでは、デジタル衛星放送番組としての画像及び音声が出力(表示)される。

【0021】

一方、受信トランSPORTストリームをハードディスク42に記録する場合には、ハードディスク制御部50は、同様にして、入力される2つのトランSPORTストリーム(受信トランSPORTストリーム及び再生トランSPORTストリーム)のうちの、受信トランSPORTストリームを選択する。

【0022】

すなわち、図2に示すように、ハードディスク制御部50において、デスクランプ13からの受信トランSPORTストリームは、スイッチ31及び入力PID(Packet Identification)パーサ51に供給される。入力PIDパーサ51は、デスクランプ13からの受信トランSPORTストリームを構成するTSパケットから、記録のみすべきTSパケット(以下、これを記録用パケットと呼ぶ)、記

録するとともに、制御に用いるTSパケット（以下、これを記録／制御用パケットと呼ぶ）、制御にのみ用いるTSパケット（以下、これを制御用パケットと呼ぶ）を抽出し、記録用パケット及び記録／制御用パケットをコード検出部101を介してタイムスタンプ付加部56に出力するとともに、制御用パケットをMUX（マルチプレクサ）53に出力する。

【0023】

MUX 53は、入力PID パーサ51が出力するTSパケットと、出力PID パーサ52が出力するハードディスクから再生されたTSパケットとを多重化し、スイッチ31に出力する。

【0024】

タイムスタンプ付加部56は、入力タイマ57が出力するクロックに基づくタイムスタンプを入力されたTSパケットに付加する。タイムスタンプ付加部56によりタイムスタンプが付加されたTSパケットは、アビター58に入力される。アビター58に入力されたTSパケットは、SDRAMコントローラ59の制御の下、SDRAM 60の入力FIFO61に記憶される。SDRAMコントローラ59は、FIFOコントローラ63の指示により、SDRAM 60の入力FIFO61と出力FIFO62のパケットの書き込み、及び読み出しを制御する。

【0025】

入力FIFO61に記憶されたTSパケットは、SDRAMコントローラ59の制御の下で読み出され、アビター58を介してインデックス付加部64に出力される。インデックス付加部64は、サーチ用スタンプ、LBA(Logical Block Address)、ユーザ領域からなるインデックスをハードディスク42への記録単位である512[Kbyte]のクラスタに付加し、セレクタ67に出力する。セレクタ67には、バスインターフェース29を介して入力されたデータや、DMAコントローラ68からのコマンドなども入力される。セレクタ67は、入力されたTSパケット、データ、コマンドなどを選択し、所定の装置に出力する。例えば、インデックス付加部64から出力され、セレクタ67に入力されたTSパケットは、ハードディスクIF24に出力され、さらに、ハードディスクドライブ15に出力されハードディスク42に記録される。

【0026】

このようにしてハードディスクドライブ15においてハードディスク42に記録されたTSパケットを再生する場合、ハードディスクコントローラ41(図1)において、ハードディスク42に記録されたTSパケットのシーケンスとしての再生トランSPORTストリームが読み出され、ハードディスク制御部50に出力される。ハードディスク制御部50において、ハードディスクIF24を介して入力された再生トランSPORTストリームは、セレクタ67を介してインデックス検出部66に出力される。

【0027】

インデックス検出部66は、入力された再生トランSPORTストリームから、インデックス付加部64において付加されたインデックスを検出する。検出されたインデックスは、DMAコントローラ68内のレジスタに記憶され、DMAコントローラ68は、その記憶されたインデックスをもとに、DMAコントローラ68を制御する。

【0028】

インデックス検出部66によりインデックスが検出され、取り除かれた再生トランSPORTストリームは、アービター58、SDRAMコントローラ59を介して、SDRAM60の出力FIFO62に、一旦記憶される。出力FIFO62に記憶された再生トランSPORTストリームは、SDRAMコントローラ59の制御の下、アービター58に読み出され、さらに、タイムスタンプ検出部54に出力される。タイムスタンプ検出部54は入力された再生トランSPORTストリームからタイムスタンプを検出し、そのタイムスタンプに従って、TSパケットどうしの時間間隔を元の状態に戻すようなタイミングで、再生トランSPORTストリームを出力PIDパーサ52に出力する。出力PIDパーサ52は、タイムスタンプ検出部54から出力された再生トランSPORTストリームを受信し、その再生トランSPORTストリームを構成するTSパケットから、再生すべき再生用パケットを抽出し、これをMUX53に出力する。

【0029】

MUX53は、出力PIDパーサ52が出力するTSパケットと入力PIDパーサ5

1が出力するTSパケットとを多重化し、これをスイッチ31を介してリンクレイヤIC16（図1）に出力する。

【0030】

リンクレイヤIC16は、スイッチ31から受け取った再生トランSPORTストリームを物理レイヤIC17を介してIEEE1394シリアルバス上をアイソクロナス転送し、あるいは、DEMUX18及びデコーダ19を介してモニタに出力する。

【0031】

ここで、受信トランSPORTストリームをハードディスク42に記録する場合、ハードディスク制御部50においてフレーム内符号化されてなるIピクチャを識別しその識別結果を各クラスタのインデックス情報に付加するようになされている。

【0032】

すなわち、図3に示すようにハードディスク制御部50はステップSP1からハードディスクへの記録処理手順に入ると、続くステップSP2において、入力PIDパーサ51から出力される各TSパケットに対して、コード検出部101によりそのTSパケットに記述されている識別コードからピクチャタイプを判別する。この場合、各TSパケットではMPEG画像以外を示すコード部分にはその先頭に「0x000001」が付加されている。従って、コード検出部101は、このとき解析するTSパケットのコード「0x000001」を検出するとこれに続くデータ列を解析することでそのTSパケットにIピクチャの開始コードがあるか否かを識別することができる。

【0033】

そして図3に示すステップSP3において否定結果が得られると、このことはこのとき解析しているTSパケットがIピクチャの開始コードを含むパケットではないことを表しており、このときコード検出部101はステップSP2に戻って続くTSパケットの解析を行う。

【0034】

これに対してステップSP3において肯定結果が得られると、このことはこのとき解析しているTSパケットにIピクチャの開始コードが含まれていることを

表しており、ハードディスク制御部50は続くステップSP4に移る。

【0035】

ステップSP4において、ハードディスク制御部50は、ステップSP3においてIピクチャの開始コードが含まれていると判別されたTSパケットに対して、タイムスタンプ付加部56により、TSパケットの先頭部分に付加されるタイムスタンプのさらに先頭部分に、Iピクチャの開始コードを含むことを表すコードマークビットを立てる。

【0036】

すなわち、図4(A)に示すように、188[byte]のTSパケットの先頭部分にはタイムスタンプ付加部56によって26[bits]のタイムスタンプが付加される。このとき、タイムスタンプ付加部56では、コード検出部101の検出結果に基づき、このときタイムスタンプを付加するTSパケットがIピクチャの開始コードを含んでいる場合には、コードマークビットCMBを立てるようになされている。このコードマークビットCMBは、PID(Packet ID)によって分別される各チャンネルごとに対応したビット(この実施の形態の場合6チャンネル分の6ビット)を有し、TSパケットの先頭部分に付加されたTSヘッダの中のPIDに対応したビットがコードマークビットとして立てられる。例えば、このとき解析しているTSパケットのPIDが第1のチャンネルを表す場合、コードマークビットとして、第1のチャンネルに対応した第1のビット(図4(A)に示すコードマークビットCMBの「A」の位置のビット)が立てられる。

【0037】

そして、ハードディスク制御部50は図3のステップSP4からステップSP5に移り、ハードディスク42に記録される単位であるクラスタごとに、コードマークをコードマークカウンタ110によってカウントする。すなわち、512[Kbyte]のクラスタを生成する場合、当該クラスタには複数のTSパケットが含まれることになり、当該クラスタ内の複数のTSパケットの中のIピクチャの開始コードを含むTSパケットの数をコードマークカウンタ110によってカウントする。この場合、コードマークカウンタ110は、各TSパケットのPIDによって分別される各チャンネルごとに分けてコードマークをカウントするように

なされている。

【0038】

そして、当該カンウト結果は、図4（B）に示すように、各チャンネルごとに分けてクラスタのインデックス情報に付加される。各チャンネルごとのコードマークカウント値（以下これをコードマーク値と呼ぶ）は、それぞれ2 [byte] 単位で記述される。

【0039】

これにより、各クラスタのインデックスには、当該クラスタに含まれる複数のTSパケットの中のIピクチャの開始コードを含むTSパケットの数が、チャンネルごとに分けられて記述される。

【0040】

このようにしてコードマーク値がクラスタのインデックスに記述されると、ハードディスク制御部50は、図3に示すステップSP6に移って、各クラスタをハードディスクドライブ15に送出することによりハードディスク42に記録し、ステップSP7において当該処理手順を終了する。

【0041】

以上のようにしてハードディスク42に各TSパケットがクラスタ単位で記録された状態において、当該ハードディスク42から所定チャンネルのストリームをトリックプレーで再生（飛び越し高速再生）する場合について説明する。

【0042】

ハードディスク制御部50のDMAコントローラ68は、ユーザの入力操作によりトリックプレー再生が指定されると、図5に示すトリックプレー再生処理手順にステップSP11から入り、続くステップSP12において、ハードディスク42からクラスタを読み出す。

【0043】

そして続くステップSP13において、インデックス検出部66はハードディスク42から読み出されたクラスタからインデックスを検出し、当該検出したインデックスに書き込まれているコードマーク値をこのとき再生しようとするチャンネルについて積算する。すなわち、図4（B）について上述したチャンネルご

とに2[byte]単位で記述されているコードマーク値CMVの中から、このとき再生するチャンネルに対応するコードマークを検出し、これを積算する。

【0044】

このとき、第1のクラスタ（例えば図6（D）のクラスタC1）について読み出されたコードマーク値の積算結果が「0」であると、このことは当該第1のクラスタ内にはIピクチャの開始コードを含むTSパケットが存在しないことを表しており、このときDMAコントローラ68はステップSP14において否定結果を得、ステップSP15に移って第1のクラスタに続く第2のクラスタC2をハードディスク42から読み出してこのとき積算されている第1のクラスタC1のコードマーク値に対して第2のクラスタC2のコードマーク値を積算する。

【0045】

そして、コードマーク値の積算結果が「1」となったとき、このことはこのとき読み出されたクラスタC2内のTSパケットにIピクチャの開始コードを含むパケットが1つ存在することを表している。この場合、Iピクチャが先頭に位置するGOP構造の特徴に基づいて、このとき読み出されたクラスタにGOPの先頭I1（図6（D））が存在することが分かる。

【0046】

そして、この場合においてDMAコントローラ68はさらに上述のステップSP15に移り、このとき読み出したクラスタC2に連続するクラスタC3を読み出し、当該読み出されたクラスタのコードマーク値を前回積算された結果にさらに積算する。

【0047】

そして、DMAコントローラ68はステップSP13、ステップSP14及びステップSP15の処理を繰り返し、コードマーク値の積算結果が2以上となったとき、このことはこれまで連続して読み出したクラスタ（例えば図6に示すクラスタC1、C2、C3及びC4）内にIピクチャの開始コードを含むTSパケットが2つ上存在すること、すなわち、2つのGOPの先頭I1及びI2が存在し、少なくとも1つの完全なGOP1が存在することを表しており、DMAコントローラ68は、ステップSP14からステップSP16に移って、このときコ

ードマークを積算したクラスタの中に含まれるG O P 1 を再生する。

【0048】

これにより、1つの完全なG O P が再生される。G O P が再生されると、DMAコントローラ68はステップSP17に移って、トリックプレー再生時に飛び越すべき予め決められた数のクラスタを飛び越し、ステップSP12に移ってハードディスク42からクラスタC8を読み出す。かくして、ハードディスク制御部50においては、G O P を含む複数のクラスタを読み出した後、所定数のクラスタを飛び越すことにより、トリックプレー再生を実行することができる。

【0049】

因みに、図6に示す1つのクラスタC8のコードマーク値の積算結果が「2」であることにより、当該クラスタC8内には1つのG O P が含まれていることが分かる。この場合、DMAコントローラ68は当該1つのクラスタC8の中からG O P を再生した後、予めきめられた数のクラスタを飛び越し再生する。

【0050】

かくして、ハードディスク制御部50では、飛び越した先からG O P を構成するT S パケットを含むクラスタを確実に再生することができ、再生画像を構成する際に必要となるG O P を抜き出して再生することができる。

【0051】

以上の構成において、ハードディスク制御部50は、ハードディスク42からトランSPORTストリームを再生する際に、連続する画像（ピクチャ）の中から、所定数の画像を飛び越しながら再生を行うことで、トリックプレー再生（高速再生）を行うことができる。この場合、G O P を構成するピクチャのうち、前後のピクチャを参照することにより画像を生成するようになされたBピクチャやPピクチャは、それ自体で画像を構成し得ないことにより、Iピクチャを含む1つの完全なG O P を再生する必要がある。従って、トリックプレー再生により飛び越した先のクラスタから再生を開始し、1つの完全なG O P が読み出されるまで連続したクラスタを読むことにより、当該読み出されたG O P を再生することで1 G O P 分の完全な画像を再生することができる。

【0052】

また、図4 (A)について上述したように、各T Sパケットの先頭にコードマークビットを付加するにつき、各チャンネルに対応したビットを用意しておき、T Sパケットのチャンネルに対応したビットにコードマークビットを立てることにより、当該コードマークビットの位置に基づいて容易にそのチャンネルが判別される。

【0053】

そして、当該チャンネルごとのコードマークビットを、チャンネルごとに積算した結果をチャンネルごとにコードマーク値として各クラスタのインデックスに記述しておくことにより、当該インデックスのコードマーク値を見れば、チャンネルごとのコードマーク値 (Iピクチャの開始コードの数) を容易に判別できる。

【0054】

以上の構成によれば、G O Pの先頭を示すコードマークをクラスタごとにカウントしておくことにより、G O Pの先頭から当該G O Pの最後までの検出を容易に行うことができ、またコードマークを各チャンネルごとに記述しておくことで複数チャンネルを含むマルチストリームをハードディスク42に記録する場合でも、各チャンネルごとに容易にG O Pを検出することができる。

【0055】

因みに、コードマークを記述してG O Pを検出するようにしたことにより、再生時においてIピクチャ、Pピクチャ及びBピクチャをその都度判別するといった必要がなく、この分CPUの負担を低減し得る。

【0056】

また、ハードディスク制御部50では、G O Pの位置情報を他のメモリ等に記憶する必要がなく、構成を簡単化できる。

【0057】

なお上述の実施の形態においては、G O Pの先頭及び最後の位置を検出してG O P単位でトリックプレー再生を行う場合について述べたが、本発明はこれに限らず、コードマークビットに対応したT Sパケットのみ、すなわちIピクチャの

みを再生することでトリックプレー再生を行うようにしても良い。

【0058】

また上述の実施の形態においては、トランSPORTストリームをハードディスク42に記録する際に、コードマーク値をクラスタのインデックスに記述する場合について述べたが、本発明はこれに限らず、ハードディスク42にトランSPORTストリームを記録した後、各TSパケットのコードマークビットを識別し、当該識別結果に基づいて記録済のクラスタのインデックス（コードマーク値）を書き換えるようにしても良い。

【0059】

また上述の実施の形態においては、TSパケット内にIピクチャ（Iピクチャの開始コード）が存在するか否かを判別する場合について述べたが、本発明はこれに限らず、GOPヘッダやシーケンスヘッダを識別するようにしても良い。

【0060】

また上述の実施の形態においては、蓄積デバイスとしてハードディスクを用いる場合について述べたが、本発明はこれに限らず、他の種々の蓄積デバイスを用いるようにしても良い。

【0061】

【発明の効果】

上述のように本発明によれば、ストリームを蓄積デバイスに記録する際に、入力されるストリームのパケットから、フレーム内符号化された符号化画像データの開始部分が含まれるパケットを識別し、識別結果に基づいて、フレーム内符号化された符号化画像データの開始部分の有無情報をパケットに付加し、付加された開始部分の有無情報を蓄積デバイスへの記録単位ごとにカウントし、カウント結果を蓄積デバイスへの記録単位ごとに付加することにより、記録単位ごとにフレーム内符号化された符号化画像データの開始部分の数を記録単位と共に蓄積デバイスに記録することができる。

【0062】

また、再生時において、蓄積デバイスに記録単位ごとに記録された開始部分の数を検出することにより、再生すべき記録単位を識別することができる。

【0063】

かくするにつき、所定数の記録単位を飛び越して再生する際に、再生すべき記録単位を容易に識別することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明による情報記録再生装置の全体構成を示すブロック図である。

【図2】

ハードディスク制御部の構成を示すブロック図である。

【図3】

ハードディスクへのトランSPORTストリームの記録処理手順を示すフローチャートである。

【図4】

コードマークビット及びそのインデックス情報への付加の説明に供する略線図である。

【図5】

ハードディスクからのトリックプレー再生処理手順を示すフローチャートである。

【図6】

コードマーク値に基づくGOP再生の説明に供する略線図である。

【符号の説明】

1 ……CPU、 11 ……アンテナ、 12 ……チューナ、 13 ……デスクランプ
ラ、 15 ……ハードディスクブライブ、 16 ……リンクレイヤIC、 17 ……物理
レイヤIC、 18 ……デマルチプレクサ、 19 ……AVデコーダ、 31 ……ス
イッチ、 42 ……ハードディスク、 50 ……ハードディスク制御部、 51 ……入
力PIDパーサ、 タイムスタンプ検出部、 56 ……タイムスタンプ付加部、 58 …
…アービター、 64 ……インデックス付加部、 66 ……インデックス検出部、 1
01 ……コード検出部、 110 ……コードマークカウンタ。

【書類名】 図面

【図1】

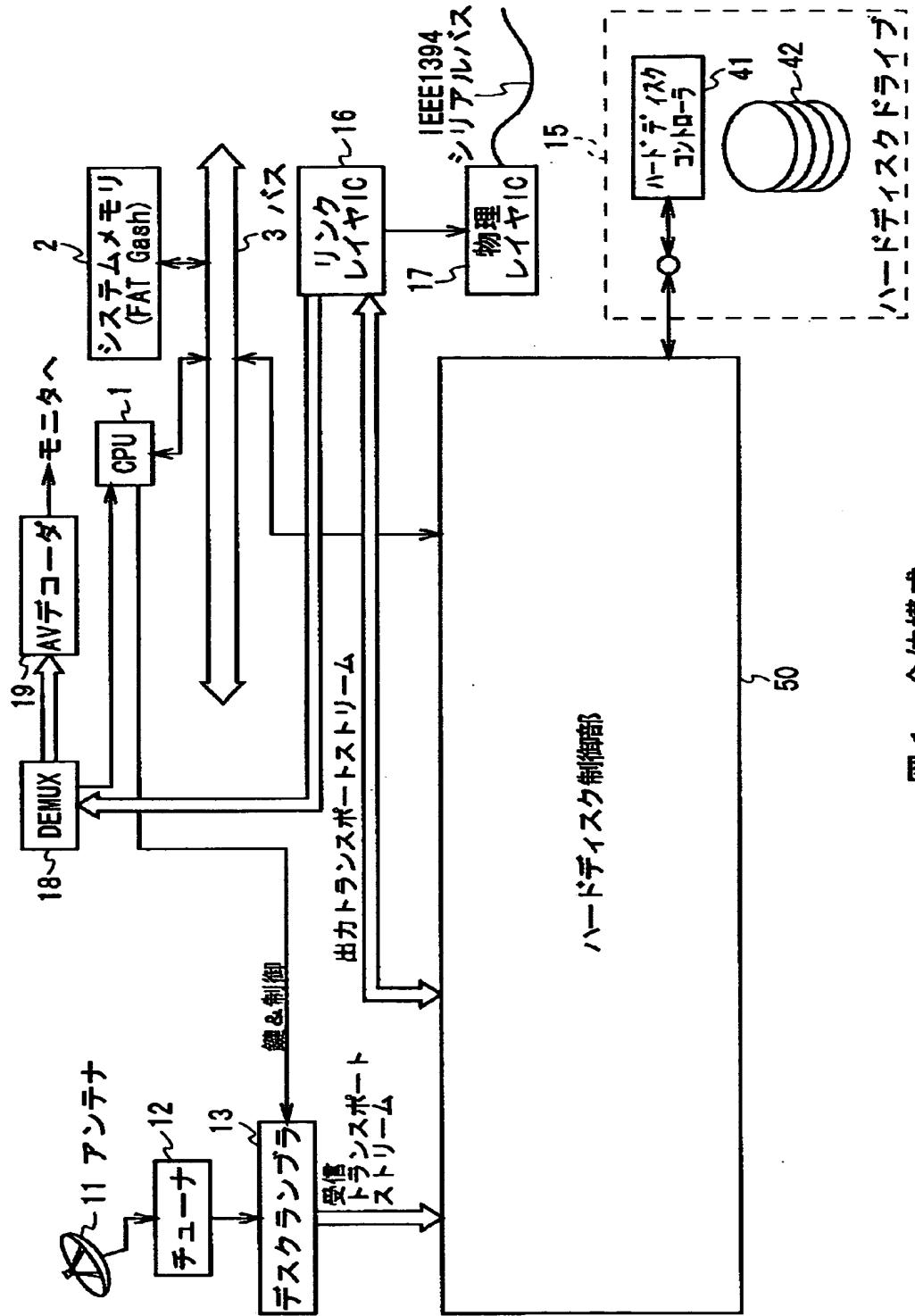


圖 1 全體構成

【図2】

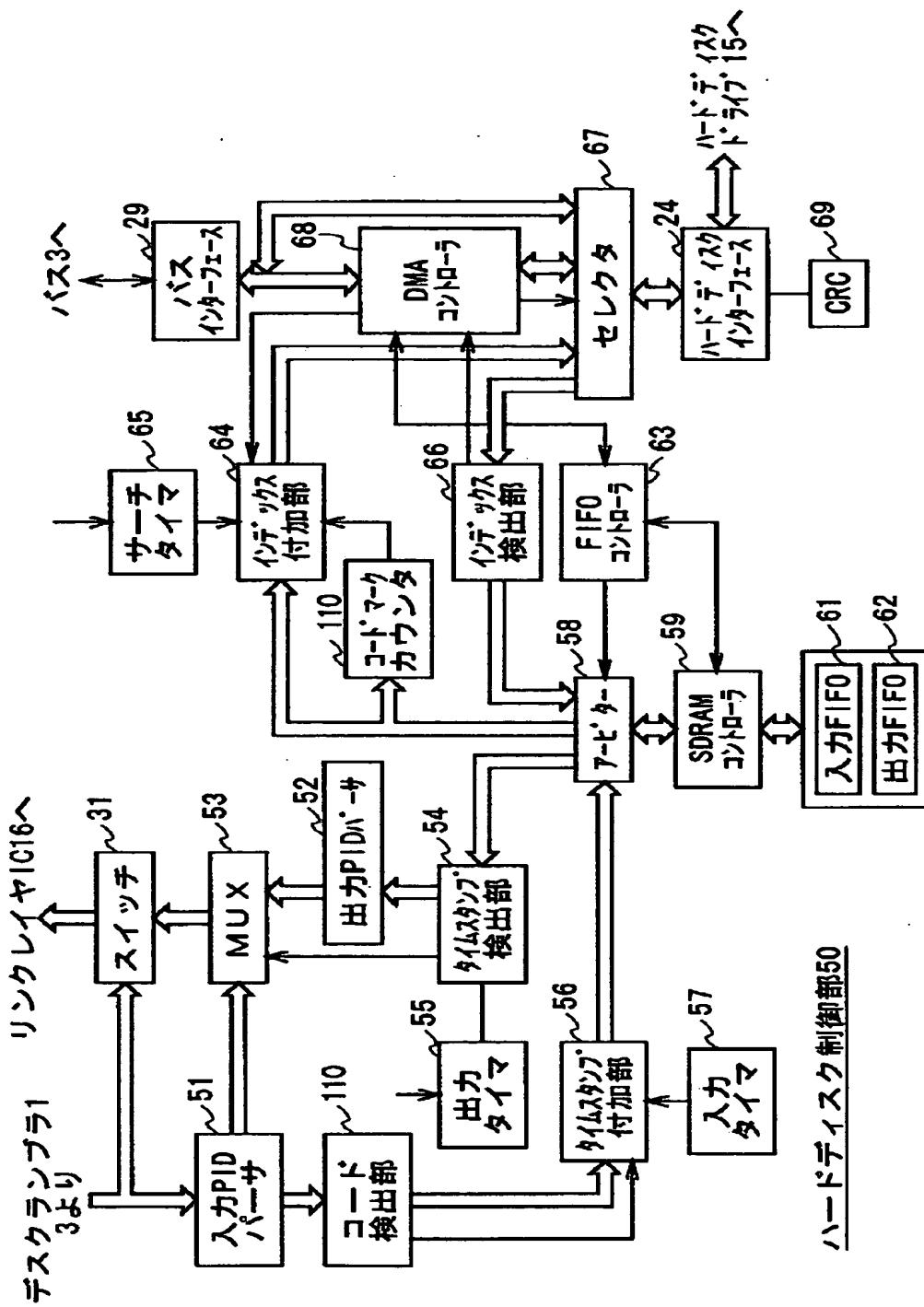


図2 ハードディスク制御部の構成

【図3】

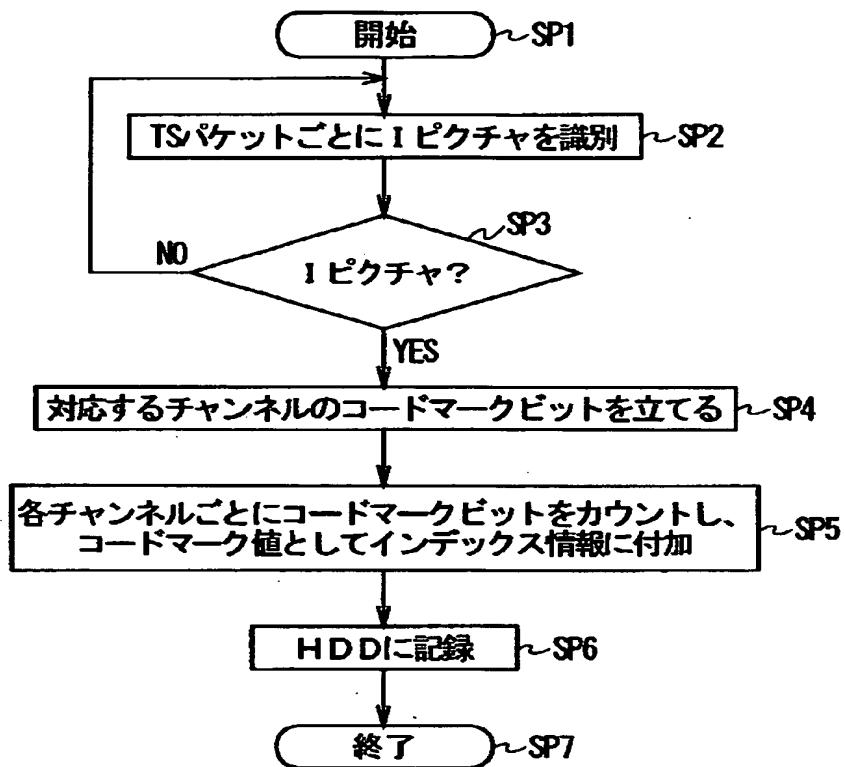


図3 ハードディスクへの記録処理

【図4】

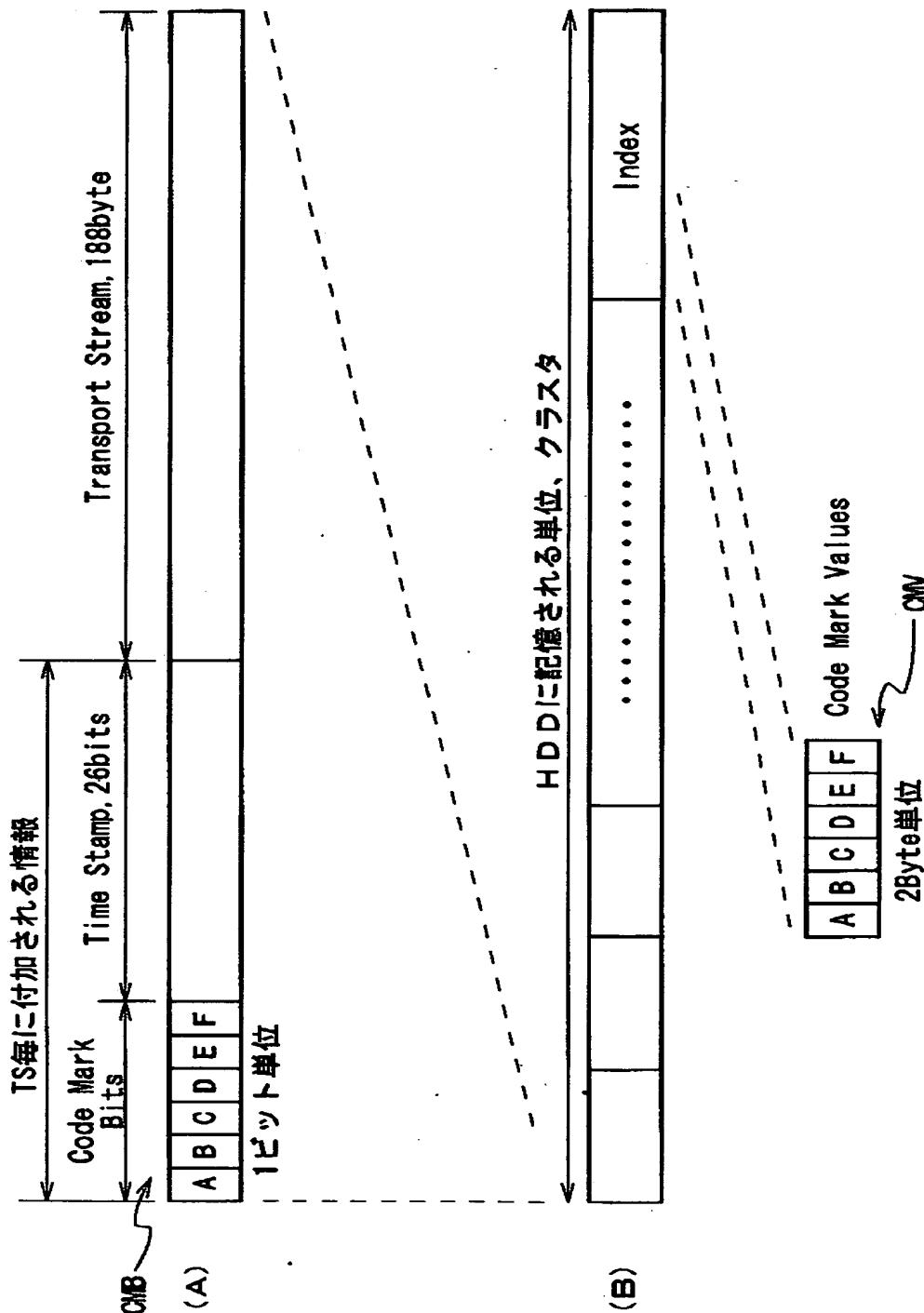


図4 コードマークビット及びそのインデックス情報への付加

【図5】

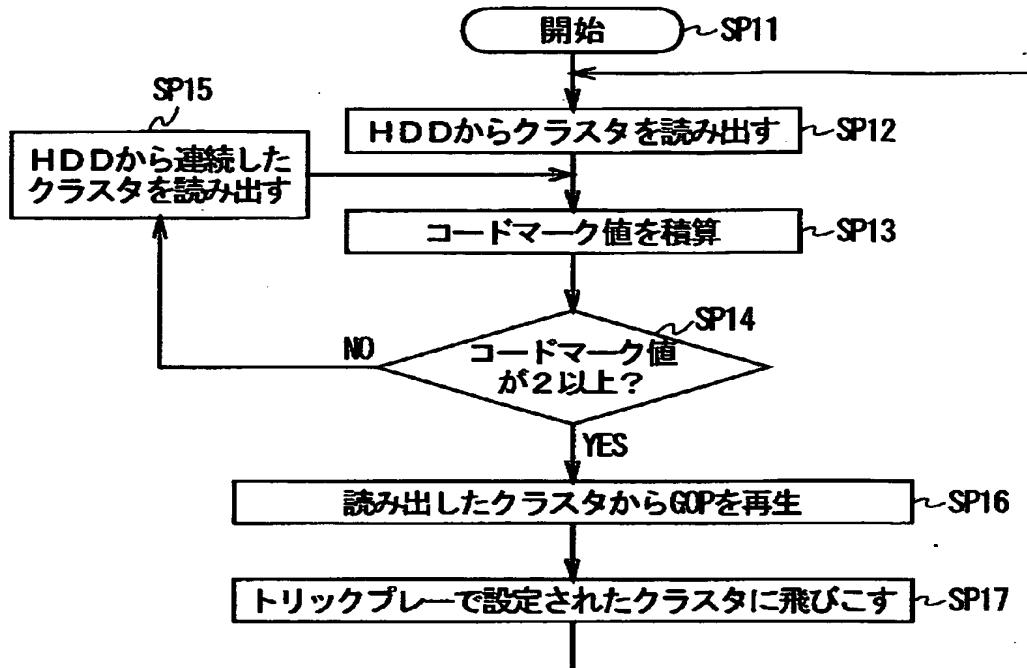


図5 ハードディスクからのトリックプレー再生処理

【図6】

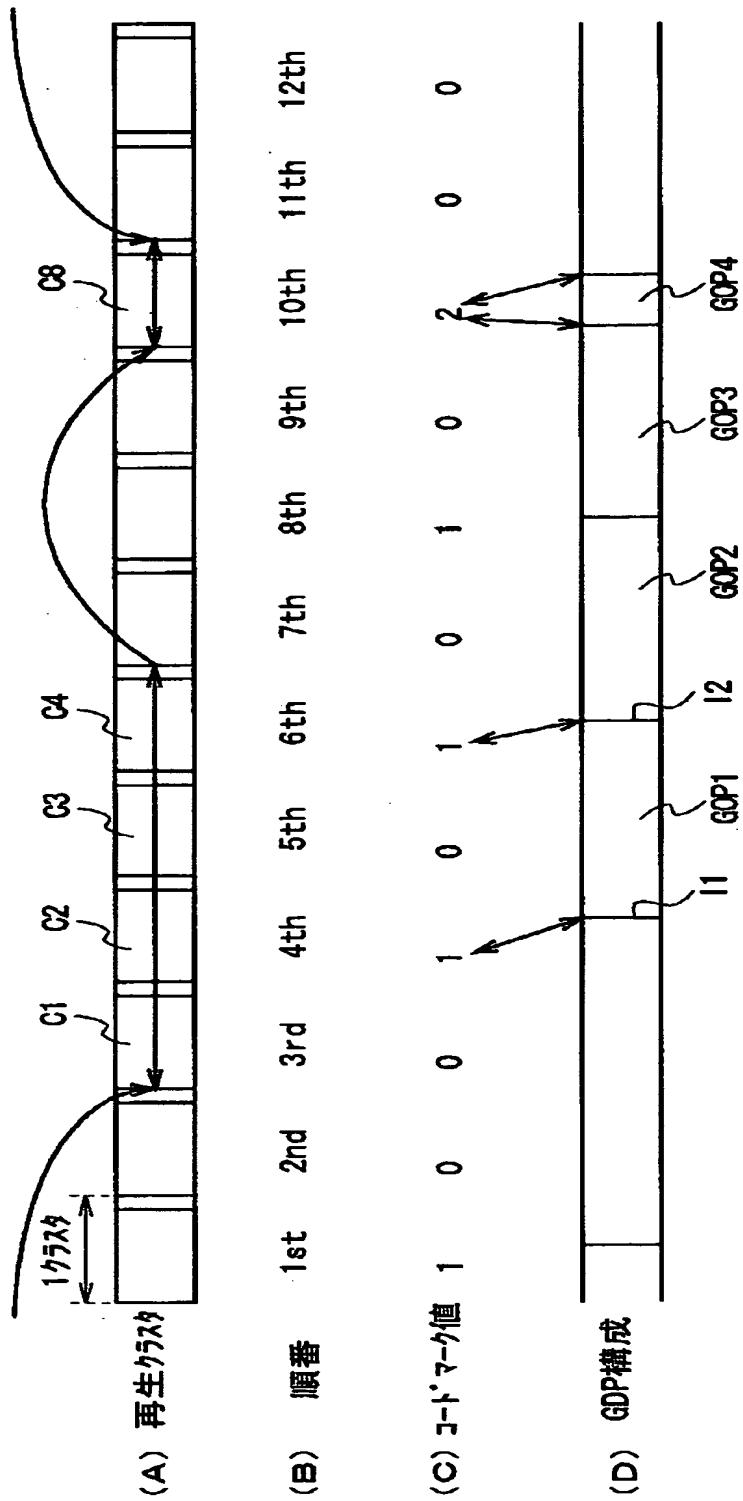


図6 コードマーク値によるGOP再生

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】

蓄積デバイスに記録されたストリームを再生する際に、飛び越し再生を容易に行う。

【解決手段】

ストリームを蓄積デバイス42に記録する際に、入力されるストリームのパケットから、フレーム内符号化された符号化画像データの開始部分が含まれるパケットを識別し、識別結果に基づいて、フレーム内符号化された符号化画像データの開始部分の有無情報をパケットに付加し、付加された開始部分の有無情報を蓄積デバイスへの記録単位ごとにカウントし、カウント結果を蓄積デバイス42への記録単位ごとに付加することにより、記録単位ごとにフレーム内符号化された符号化画像データの開始部分の数を記録単位と共に蓄積デバイスに記録し、また、再生時において、蓄積デバイス42に記録単位ごとに記録された開始部分の数を検出することにより、再生すべき記録単位を識別することができる。

【選択図】 図2

出願人履歴情報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都品川区北品川6丁目7番35号

氏 名 ソニー株式会社